令和８年　第１２回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日　時：令和８年６月２２日（月）午後２時

場　所：教育委員会室

	教育長	内　野　雅　晶
	教育長職務代理者	森　本　勝　也
	委員	伊　藤　真　弓
	委員	松　山　隆　之
	委員	天　野　安喜子
事務局	参事	野　口　千佳子
	教育推進課長	栗　間　大　介
	学務課長	木　村　美由紀
	教育指導課長	大　川　千　章
	学校建設技術課長	武　藤　　剛
	統括指導主事	田　中　将　一
	統括指導主事	松　本　大　将
書　記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	清　水　敏　幸
	同　主査	大　迫　茉　莉

	開会時刻　午後２時
内野教育長	令和８年第１２回教育委員会定例会を開催します。 本日は、３名の方の傍聴の申し出がありました。事務局は、傍聴人を入室させてください。 それでは、日程第１、署名委員を決定します。 本日は、松山委員と天野委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。 続いて、日程第２、議案の審議に入ります。 第３４号議案、江戸川区指定無形文化財保持者の認定解除及び指定解除についてを議題とします。事務局から説明をお願いいたします。
栗間教育推進課長	それでは、３４号議案につきましてご説明させていただきます。 表紙をおめくりいただきまして、告示（案）と記載の文書をご覧いただけますでしょうか。こちらは、無形文化財・工芸技術組紐につきまして、伝統工芸保持者の死去に伴いまして、指定と認定を解除するというものでございます。 次のページ以降は、認定の際などに用いました資料などでございます。 以上でございます。
教育長	ありがとうございます。 この件に関しまして、何かご質問等がありましたらお願いいたします。
松山委員	こちらの方のそれぞれに対して、後継者はいらっしゃいますでしょうか。
教育推進課長	ご子息がいらっしゃいまして、将来的にはこちらの技術を継承していくというようなところでは伺っております。ただ、現時点では、区の伝統工芸保持者という認定には至っておりませんので、いずれそのあたり、技を磨いていただいて、また改めて文化財保持者になっていただければなというふうに期待しておるところでございます。 以上です。
松山委員	人の手でないと伝え続けることができないと思いますので、応援したいと思います。

教　育　長	よろしいでしょうか。 ほかにご質問等ありましたら、お願いいたします。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
教　育　長	よろしいでしょうか。 それでは、原案のとおり決定いたします。 次に、第３５号議案、江戸川小学校下鎌田小学校統合校校名についてですが、議会に上程される前の条例案に関することでありまして、政策形成過程にある案件でありますので、江戸川区教育委員会会議規則第１３条に定める秘密会として審議したいと思います。この発議に賛成の方は挙手をお願いいたします。 〔賛成者挙手〕
教　育　長	賛成多数と認めます。本案件は、秘密会として実施いたします。審議は、本日の公開案件の後に行いたいと思います。 なお、第３５号議案については、議案が議会に上程された後に、議事録の公開を可能といたします。 続いて、日程第３、教育関係事務報告にまいります。 教育委員会後援名義の使用承認について、事務局から説明をお願いいたします。
教育推進課長	それでは、横版の使用申請一覧のページをご覧ください。 まず、教育推進課からは、第４３回江戸川伝統工芸展についてご報告をさせていただきます。 申請者は、江戸川区伝統工芸会会長からでございます。教育委員会、江戸川区ともに４０回目の後援回数ということになってございます。実施日時は、令和８年の９月３日から８日まで。会場は、タワーホール船堀。経費の徴収は、会員から記載のとおりでございます。区からの後援内容といたしましては後援名義の使用及び会場、プログラム、ポスター、ホームページ掲載などについて行うということで予定してございます。 以上でございます。
教　育　長	ありがとうございます。

	それでは、この件に関しまして、何かご質問ご意見等ありましたらお願いいたします。 まず、１点目のほう、伝統工芸展のほう、お願いいたします。
天 野 委 員	教育委員会の後援名義ということなので、学校のほうに報告をしていくかと思いますが、そういった点についてもしお分かりになれば、ちょっと詳しく教えていただきたいと思っています。 もう一点、二つあります。一つ目が今のお話。もう一点、公募をされるというところなんですけど、これ、もしかして私の個人的興味になるかもしれませんが、そもそもある会員の方と持っている伝統工芸の技術とは違う方が入ってくる、もしくは、いや重なってるけれどもねっていうところなのか、過不足があるからっていうところで公募をいただく趣旨なのかというところをちょっと教えていただければと思っております。
教育推進課長	ではまず、１点目、学校への周知というところでございますが、こちらは教育委員会の所管ではあるんですけれども、どちらかというと子ども向けというよりは大人向けのほうが向きが強いというところがあります。なので、ポスター展開等では、当然、展開はいたしますけれども、子どもに直接ダイレクトにこれを見に来てねというところは若干弱いところがあるかもしれないので、ちょっとその辺は今後の課題として挙げさせていただこうと思います。 あと、一般公募でございますけれども、前回の公募が１点あったというところで、補い合うというような表現がよろしいかなというふうには捉えているところでございます。 以上です。
天 野 委 員	ありがとうございました。 １点目、今、教育、子どもたちには、ちょっと大人向けということで、子どもたちに対してこれから検討というところ、そういったお話がありましたけれども、そうなってくると、教育委員会の現時点では後援が必要？というクエスチョンが入ってしまうのかなと思っているところです。できれば、子どもたち、多分その奥には、伝統って幼い頃から見ていくと、昔を振り返って今の時代にも生かせることたくさんあるよねっていうことの知識を広めていただく、もしくはそれを宝としてとどめていただくためには絶対必要だと思うので、そういった方向の言葉がどこかに今度見えるように、こちらの

	主催者側にもお伝えいただければ幸いだと思っているところでした。繰り返しですけど、伝統工芸って子どもたちにとってはとても大切で、歴史を知る上ではとても大切だと思っているので、後援名義に関しては大賛成ですので、今後、検討ではなく、今この時点からも、ぜひ子どもにとっても大切なんだということを表に言い出して周知していただければと思っているところです。よろしくお願いします。
教　育　長	ほか、伝統工芸展。
伊 藤 委 員	今の天野委員のご意見、ご質問と重なる部分もあるんですけれども、私も昨年、この伝統工芸展を協議したときにも気になりましたのが小中学生、子どもたちがどれだけいらっしゃるかっていうことが興味がありまして、でも、先ほどのお話で、やはり少ないということですので、一つ感じたのは事業計画の一番最後のところのつまみ細工、江戸風鈴、能面とありますけれども、やはり日常生活の中で今の子どもたちの目にする、特に江戸川にとっては江戸風鈴。江戸風鈴はやっぱり日常で見かけるものですので、ぜひ広報、また小中学生にお声をかけるときに、この実演ワークショップを丁寧に周知しながらだと、少し興味を持って、昔のものというよりも現在につながっているんだっていうことが分かるような広報ができたらいいのではないかという意見ですけれども、思いました。 以上です。
教　育　長	ほか、工芸展関係、何かありましたらお願いいたします。 よろしいでしょうか。 それでは、続きまして、キッズビジネスタウンいちかわについて、ご説明お願いします。
大川教育指導課長	それでは、私からも同様に後援名義の使用についての報告でございます。 千葉商科大学から令和８年９月２６日（土）と２７日（日）に大学構内において実施するキッズビジネスタウンいちかわについて、後援名義の使用の申請がございました。こちらのイベントは働くことの大切さ、また喜びや楽しみを知って、一人ひとりの働きが社会を形成している要素であるということを理解することを目的として、平成１５年から千葉商科大学が開催している、幼児と小学生向けのイベントとなります。本区の小学生も参加しておりまして、令和７年度は小学生２１名が参加となってございます。イベントの

	具体的な内容としては、仮想の街ということでキッズビジネスタウンいちかわの中で、子どもたちがそれぞれやりたい仕事を選んで、その街の中だけで通用する通貨を使いまして、給料を受け取って自分が働いて得たお金で買い物など疑似体験するというようなもので、運営は大学生が中心となって行っている内容となります。 　このイベントについては、これまでも教育委員会において後援名義の使用を認めていただいたものでございます。子どもたちに働くことを通じて社会の仕組みを理解してもらうことを主の目的としていることから、事業内容が明らかに教育に寄与するものであると考えてございます。また、これまでも区内の全小学生にこの案内等をされておりまして、実際に区内の様々な小学校の児童が参加しているということで、かなり全域に及ぶ規模のイベントとなっております。こういったことで事業内容の性質や経緯から今年度についても後援名義の使用をご承認いただきたいと考えているところでございます。 　ご説明は以上でございます。
教　育　長	ありがとうございました。 　それでは、本件について、何かご質問ご意見ありましたらお願いいたします。
伊 藤 委 員	昨年もお話があって、とても楽しく学べてすごくすばらしいなと想像しているんですけれども、何か参加した子ども、お子さんたちの中で感想ですとか反応がもし届いていらっしゃいましたら教えていただきたいと思います。
教育指導課長	直接、私たちのほうでお声としては頂戴していないところなんですが、これまでは１校で各１名とか２名がばらばらに参加しているような状態だったんですが、昨年度の傾向としては船堀小学校で５名参加ということで、やや学校の中でも人数が増えている学校もございます。あとは下小岩小学校で３名、大杉第二小学校と中小岩で各２名ということで、学校の中で多分、好評だったところから、少しずつ一緒に参加したい子どもたちが集まってる傾向があるのかなと思ってございます。 　以上です。
伊 藤 委 員	ありがとうございました。

天 野 委 員	後援名義に関しては、こういった生きるための仕組みということを知る部分ではいいなと思っています。 先ほど、第１５回でしたっけ、１９回で長年やっていらっしゃって割と浸透してきているというお話いただいた反面ですね、丁寧に参加人数、教育委員会から何名参加していますかっていうご質問が過去にあったということで書いていただける部分があるかと思うんですが、割合としてはちょっと少ないかな。数値があるので見えやすいんですけれども、確かに今まで１名のところが５名になってきたということで、浸透しつつはあるというところですが、大規模なイベントとして定着しつつありますという話もあったので、その辺の定着って大体どの辺を定着とされていらっしゃるのか。ちょっとこの人数だけだとあまりにも数%しか、述べ人数から見ると江戸川区の参加が２１人ですから、定着してきたっていうところの範囲になってるのかなっていう部分のお伺いになってきますが、通常、こういったイベントっていうのは参加すると、とりあえず人数この辺まで来るといいよねっていう目標があるかと思うんですが、その辺のニーズを教えていただけますか。
教育指導課長	今お話したとおり、人数として大規模な人数が一斉に集まるという傾向はないので、そういった意味での参加の比率からいうと、定着って言われるとなかなかっていうところ、おっしゃるとおりだとは思っています。こちらのキッズビジネスタウンいちかわ自体は、これまで２４回開催されていて、そのたびにちょっとご案内を発送させていただいていることから、知名度としては上がっているんだろうとは思うんですが、一方で、千葉県のほうに移動されてこちらのほうに参加するという形態については、保護者の考えも様々ある中でのご判断というところもあるので、なかなかそれを区内で開催するようには、なかなか人数的に、招集かけるというか性質がないので、それだけの人数ではあるんですけれども、参加自体は本区から流れていっているということはあるのかなと思っております。 以上です。
天 野 委 員	最後に１点だけ。ご質問もありましたけれども、感想の部分、できれば後援名義を江戸川区教育委員会と出しておりますので、江戸川区の子どもたちだけでもいいし、全体的な感想でも、どちらでも構いません。入手できる方法で、ちょっとやっぱりどんなことが皆さん体験されたことによって、学びが得られたかなということを知りたいというところの気持ちがありますので、今回に関してから、ぜひ、一言二言でも結構ですから、感想を受け取っ

	ておいていただけるといいなと思います。
教　育　長	よろしいですか。
教育指導課長	ご意見ありがとうございます。なるべく参加したお子さんが増えているような学校については、多分多くの感想もいろいろ聞いていることだと思いますので、そういったところからも徴収していきたいと思っております。
天野委員	すみません、私の言葉不足かもしれない。主催者側で多分アンケート取ってますよね。あえてこの学校にどうだったっていうことは大丈夫です。主催者が持っているアンケート、受け取ったそのものをちょっと教えてくださいっていう方向でお願いしたいと思います。言葉不足で申し訳ありませんでした。
教　育　長	ほかに、この点についてご質問等ありましたらお願いします。
松山委員	こちらの主催ですが、学校、大学の中でも、主に学生が小学生を対象に行っている話だと思いますが、お隣の町ということで、江戸川区から通っている学生もいるのではないかなと思われるんですが、もし江戸川区の小中学校を卒業して、千葉商科大学に入学して、また未来の子どもたちにというようなサイクルになってるのであれば、次回以降でいいんですが、実態を伺いたいと思います。
教　育　長	よろしいでしょうか。 ほかにこの件で何かございましたら、お願いいたします。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
教　育　長	それでは、ほかにないようでございますので、ただいまの２件につきましての報告事項を了承したいと思います。 それでは、続きまして、江戸川区版架け橋プログラムの作成について、事務局から説明をお願いいたします。
松本統括指導主事	教育相談センターから、江戸川区版架け橋プログラムの作成についてご報告させていただきます。

	令和４年度から文部科学省が幼保小の架け橋プログラム事業を推進しており、各自治体には幼保小の円滑な接続ができる体制づくりが求められております。 そこで本区でも、江戸川区版の架け橋プログラムを作成することといたしました。こちらの作成にあたり、関係機関の声を適切に反映するため、学識有識者、区立私立の幼稚園長、小学校長の代表を招き、子ども家庭部と教育委員会事務局が共同で事務局となり、委員会を立ち上げました。 この幼保小架け橋プログラム検討委員会では、幼稚園、保育園から小学校への接続において、幼児教育からの一貫性や連続性が十分に確保できていないという課題を踏まえ、各関係機関が幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有できるようなプログラムを作成していきます。 また、現在進級に当たっては、自主的に引き継ぎ資料等を用いて、関係者で引き継ぎを行っておりますが、様式等が任意のため、煩雑になってしまっている課題があるため、全校（園）共通の引き継ぎシートの作成についても検討を進めていきます。 架け橋プログラムについては、今年度中に素案を作成し、令和９年度中に完成させます。そして、引き継ぎシートについては、今年度中に完成させ、令和９年度の入学に向けて活用してまいります。江戸川区版架け橋プログラムの活用を進め、子育てするなら江戸川区というフレーズが実感できるようにしてまいります。 説明は以上です。
教　育　長	ありがとうございます。 この件につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。
天 野 委 員	まず、このプログラム、すばらしいな、いいなと思っているところです。その中で、幼少期、その文化、一番私興味があるのが文化なんですけども、保護者が海外の方、両方とも海外の方が日本に来て、その子どもが日本語を学ぶとか日本の伝統っていうところを学ぶ。こちらも多分、日本側としては十分に指導ができる範囲なんでしょうけれども、そもそも家庭自体が異文化の場合っていうところを、その文化を日本の文化の中で子どもたちが成長していくときに、子どもだけに視点を注ぐだけではなくて、その家庭に、来た日本の文化はこうなんだよっていう方向に知っていただくことってとても大切だと思うんですが、そういったことが含まれていますかというところのご質問です。

統括指導主事	ご質問ありがとうございます。インターナショナルスクールの出身者だとか、また外国からの転入者など、様々な児童が入学することによって児童の入学前の情報からはその児童の特性や発達段階を適切に把握できなくなるということは現状は起きております。そこで、やはり幼稚園、保育園等に在籍する幼児であれば、もちろん引き継ぎ等はなされるんですけれども、現状、保護者からの聞き取りだとか、そういったところからしか情報を得ることができません。ですので、もちろん、その保護者との対話っていうところ、その背景というところについては、各学校が適切に把握するためにどうしていくかっていうところについても、こちら、委員会のほうで検討できるようなふうにしていきたいなというふうに考えております。 以上です。
教　育　長	ほかに、この件につきまして。
松 山 委 員	実際の数や、あとは認定されているところと認定されていないところというのもあると思いますが、どのぐらいの母体数なんでしょうか。
統括指導主事	申し訳ございません。現在ちょっと具体的な数については把握しておりませんので、そういった認定しているか認定してないかも踏まえて、探っていくような形にしていきたいと思っております。 以上です。
松 山 委 員	ありがとうございます。 認定にかかわらず、アナウンスはあるという認識で。
統括指導主事	はい。
教　育　長	ほかにいかがでしょうか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
教　育　長	それでは、ほかにないようでございますので、この件に関しましては報告事項を了承したいと存じます。 それでは、傍聴人の皆さん、これより秘密会となりますので、ご退席をお

	願いできたらと思います。 〔傍聴者退室〕 〔秘密会〕 〔秘密会終了〕
教　育　長	以上をもちまして、令和８年第１２回教育委員会定例会を終了いたします。 閉会時刻　午後２時３８分